

学校規模適正化の推進に係る教育委員会の方針骨子（中間まとめ）

◎学校規模適正化を推進するために

人口減少、少子化により学校が小規模化する中で、子どもたちにより良い教育環境を提供するため、平成26年1月に学校規模適正化審議会から答申が出されました。現在、平成26年10月に設置した学校規模適正化推進会議において、答申の具体化に向けた意見をいただきながら、本市として学校再編の基本方針を策定し、学校再編の第一歩を踏み出すこととしています。しかしながら、基本方針の策定に向けては、まだ検討の途上です。

よって、これまでの会議を踏まえ、次のとおり教育委員会の方針骨子の中間まとめを行います。

①将来の学校像

現在、市内には小学校7校、中学校4校（うち小中一貫校1校）がありますが、将来の学校像として、長期の視点でみると、最終的には小学校1校、中学校1校となることが見込まれることから、まずは1小1中の2校案があります。しかし、そこに至る過程として、2小1中の3校案、3小1中の4校案の選択肢もあります。また、小中一貫教育の取組を活かして一貫校とする案もあります。一方で、その他の案も多様にありますが、中学校では2校、小学校では4校になると、小規模校を解消するのが難しくなりますので、学校が小規模化する中、子どもたちに良好な教育環境を提供するという審議会答申の趣旨を鑑み、現段階では次の案にまとめました。

- ・小学校1校・中学校1校の案（小中一貫校1校とする案を含む）
- ・小学校2校・中学校1校の案
- ・小学校3校・中学校1校の案
- ・小学校1校・中学校1校・小中一貫校1校の案（小中一貫校2校とする案を含む）
- ・小学校2校・中学校1校・小中一貫校1校の案
- ・小学校3校・中学校1校・小中一貫校1校の案

今後、各案について検討を重ね、将来の学校像のとりまとめを行います。

②魅力ある学校づくり

新たな学校にとって、魅力ある学校づくりが重要であり、そのために十分な検討が大切です。魅力ある学校づくりに向けて、推進会議で熱心な議論をいただきました結果、多様な意見が出されました。これらの意見を十分に踏まえ、市として魅力ある学校として目指すべき方向性を打ち出すために、当委員会で十分な研究、検討を行いながら、大きな視点をもって魅力ある学校づくりの方向づけを行っていきます。

なお、現段階で検討すべき視点は次のとおりです。

- ・学力向上の取り組み
- ・教育環境・施設面の充実
- ・グローバル時代に対応した教育

- ・地域に根ざした教育
- ・日本一、他市にないような取り組み
- ・生きる力をつける取り組み

③市民理解の促進

学校再編に向けては、市民への周知、理解を得ることが大切です。この件については、次のような取り組みが必要と考えますので、具体的にその実施を検討していきます。

- ・シンポジウムの開催

今後は当委員会の方針骨子（中間まとめ）に基づき、市民をはじめ、関係機関、外部団体等に向けて理解の促進を図ります。